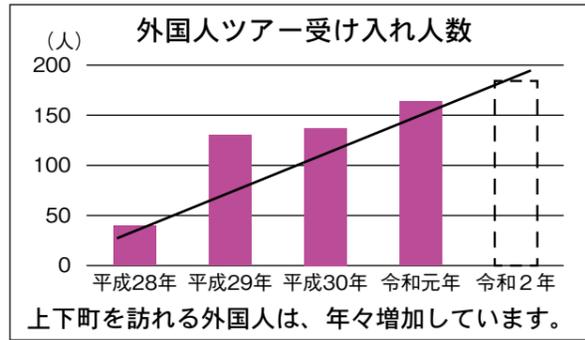


# 上下町に インバウンドの波 来る

きた  
上下まちづくり協議会事務局 (☎62-3999)



①ツアー旅行者のお出迎えは、多くの方で迎えます。参加者のほとんどが、ボランティアで来ており、そのままガイドの補助をする方も。③細い生活道路を通るツアー旅行者。柿や栗、農作物や風景などに感動し、写真を撮りながら歩きます。

初めての訪日外国人旅行者対象のツアーが実現しました。そして、年を追うごとに受け入れの回数は増えていき、現在は年間10数回計150人を越える旅行者の受け入れをしています。

**なぜ上下町で受け入れが  
できているのか**

外国人ツアーといえば、京都や大都会を訪問するイメージが強く「なぜ上下町で受け入れが増えているのか」という疑問が浮かんできます。上下まちづくり協議会事務局の守本祐子さん

にその点を伺うと「確かにそういったツアーは多くありますが、違ったものもあると知りました。私たちが初期は本当に楽しんでもらえないのか不安でした。しかし、モニターツアーや実際のツアーをガイドしていく中で、喜んでもらえているのが分かったので、自信を持って対応できるようにになりました。また、ツアーにもよりますが、広島や京都などを巡るツアーの一部分として上下町を訪れ、昼食を含む4時間程度を過ごし、くどくどしています。大きく有名な観光地ではない上下町に来ていただけている

のは、日本人の日常生活を見たり、体験したり、上下に住んでいる人との触れ合いもできる場所だからだと思います。さらに、英語がある程度できる地域の方が、ボランティアについてくださいます。移動の最中などに、「仕事は何をしているの?」や「上下で生まれるの?」などの会話をしながら歩きます。これは、他の地域ではやっていないことです。観光客としてではなく、人と人として出会って、会話をします。その結果が、ツアーのアンケートで印象に残った地域として、上下が選ばれている

要因だと思っています。」

白壁の町並みでのガイドには、上下中学校の英語ガイドグループも参加し、日々練習してきた英語で、名所の歴史を説明しています。用意してきた文章をただ読むだけでなく、会話をしながら、一緒に歩く。何気ない会話の中で心と心が届いたり、お礼のメールが届いたり、ツアー客との手紙のやりとりをするなど、ツアー客の満足度は高いようです。守本さんは、「ツアーで来てくれたお客さんから、「個人的に行きたいから、広島市からどうやって行きたい?」と連絡が来ました。実際に再度来られた方もおられ、上下町を好きになって帰ってもらえていることが嬉しいですね。もっと多くの人に上下町に来てほしいし、上下町が特別というわけではないので、どこでも受け入れはできると思っています。外国人旅行者も増えてほしいけど、本音は、日本人の観光客にも、もっと来てほしいですね。」と話してくださいました。



**本当にできるのか!?**

平成27年にはモニターツアーをやってみようという話が出る中、その打ち合わせを兼ねて、外国人ツアーの担当者が訪れ、善昌寺を見学し、細い生活道路の散策、中央公会堂での剣道体験などの後、担当者が「これは面白い!」と賞賛されたことから、その2か月後にはモニターツアーが行われ、翌年の平成28年には、

上下町では、平成26年に江戸・明治の住時を偲ばせる白壁の町並みを活用した地域の活性化を目指す、上下まちづくり協議会を発足しました。

市や県と連携していく中で、県が地域活性のコンサルティングとして委託していた一般社団法人「九州のムラ」と出会います。その担当者がある日言われた「上下で外国人ツアーをやってみませんか?」の一言から上下町での外国人ツアーの受け入れが動き出しました。